

# 音楽科調査研究報告書

書名 観点	教育出版 音楽のおくりもの					
	1 3 1	2 3 1	3 3 1	4 3 1	5 3 1	6 3 1
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歌唱については、例えば第 1,2 学年では、遊びながら体を動かして歌ったり、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら楽曲の気分を感じ取ったりする活動を通して、基礎的な表現の能力を身に付け、音楽表現の楽しさに気付くことができるようになってきている。</li> <li>○ 器楽については、例えば第 3,4 学年では、打楽器や和太鼓、リコーダーなどを用いて曲想にふさわしい表現を工夫したり、音の重なりに気を付けて演奏したりする活動を通して、基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取ることができるようになってきている。</li> <li>○ 音楽づくりについては、例えば第 5,6 学年では、音楽の仕組みを生かしながら、つくる音楽の形や方法を考えたり、まとまりのある音楽をつくったりする活動を通して、基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうことができるようになってきている。</li> <li>○ 鑑賞については、例えば第 5,6 学年では、曲想とその変化などの特徴を感じ取ったり、楽曲の構造を理解して聴いたりしながら書く活動を通して、様々な音楽に親しみ、基礎的な鑑賞の能力を高め、音楽を味わって聴くことができるようになってきている。</li> <li>○ [共通事項]については、例えば第 3,4 学年では、旋律の特徴を生かして演奏したり、曲の流れを感じ取って聴いたりする活動を通して、音楽を形づくっている要素が生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることができるようになってきている。</li> <li>○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、図形化した旋律を見ながら鑑賞したり、感じ取った音楽を形づくっている要素を記入したりするなど、各ページに示された[共通事項]を取り上げて基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得する活動が取り上げられている。例えば、第 3 学年では「せんりつと音色」、第 4 学年では「音楽のききどころ」などが取り扱われている。</li> </ul>					
内容 の 構 成 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内容の構成については、わらべうた、郷土の音楽、日本の伝統的な音楽等を取り上げたり、透明シートを効果的に用いたりするなど、児童の生活経験や興味・関心などに配慮されている。</li> <li>○ 内容の排列については、[共通事項]を感じ取る力を身に付ける学習の後に、言葉と音楽とのかかわりなどを理解し、音楽表現を深める学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるよう工夫されている。</li> <li>○ 内容の分量については、第 5 学年では、歌唱の教材数は 3 1、器楽の教材数は 1 5、音楽づくりの教材数は 3、鑑賞の教材数は 7 2 であり、総ページ数は 7 8 ページで、前回より 1 1 パーセント増となっている。</li> </ul>					
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 巻頭・巻末に豊富な資料を掲載したり、北海道民謡の「ソーラン節」を歌唱と器楽の教材として取り上げたりするなど、児童の学習意欲が高まるように工夫されている。</li> <li>○ 目次の主要教材ごとに、「学習のねらい」や[共通事項]を示したり、活動のポイントを示したりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。</li> <li>○ 各学年で学習した[共通事項]のまとめや、運指表や音符・休符、記号などを折り込みページに掲載するなど、使用上の便宜が図られている。</li> </ul>					
その他						

# 音楽科調査研究報告書

書名 観点	教育芸術社 小学校音楽  1 3 2      2 3 2      3 3 2      4 3 2      5 3 2      6 3 2
取 扱 内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 歌唱については、例えば第1,2学年では、遊びながら拍の流れにのって体を動かして歌ったり、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら歌ったりする活動を通して、基礎的な表現の能力を身に付け、音楽表現の楽しさに気付くことができるようになってきている。</li> <li>○ 器楽については、例えば第3,4学年では、打楽器や和太鼓、鍵盤楽器やリコーダーなどを用いて曲想にふさわしい表現を工夫したり、音色に気を付けて演奏したりする活動を通して、基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取ることができるようになってきている。</li> <li>○ 音楽づくりについては、例えば第5,6学年では、音楽の仕組みを生かしながら、リズムを工夫したり、曲のまとまりに気を付けながら旋律をつくったりする活動を通して、基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうことができるようになってきている。</li> <li>○ 鑑賞については、例えば第5,6学年では、曲想や音色の変化などの特徴を感じ取ったり、歌詞と旋律のかかわりに着目して聴いたりする活動を通して、様々な音楽に親しみ、基礎的な鑑賞の能力を高め、音楽を味わって聴くことができるようになってきている。</li> <li>○ [共通事項]については、例えば第3,4学年では、拍の流れや旋律を感じて演奏したり、楽曲の特徴を感じ取って聴いたりする活動を通して、音楽を形づくっている要素が生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることができるようになってきている。</li> <li>○ 知識・技能の習得、活用、探究への対応については、歌唱教材で学習した音楽の仕組みを利用して音楽づくりをしたり、「こころのうた」に示された音楽の要素を理解したりするなど、[共通事項]を取り上げて基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得する活動が取り上げられている。例えば、第3学年では「海風きって」、第4学年では「歌のにじ」などが取り扱われている。</li> </ul>
内容 の 構 成 列 ・ 分 量 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 内容の構成については、わらべうた、郷土の音楽、日本の伝統的な音楽等を取り上げたり、各学年の発達段階に応じたテーマで特集を設けたりするなど、児童の生活経験や興味・関心などに配慮されている。</li> <li>○ 内容の排列については、音楽の特徴や[共通事項]を感じ取る力を身に付ける学習の後に、多様な音楽の魅力を味わいながら自分たちの音楽表現を深める学習を取り扱うなど、系統的・発展的に学習できるように工夫されている。</li> <li>○ 内容の分量については、第5学年では、歌唱の教材数は27、器楽の教材数は10、音楽づくりの教材数は2、鑑賞の教材数は11であり、総ページ数は75ページで、前回より約4パーセント増となっている。</li> </ul>
使 用 上 の 配 慮 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「音楽プリズム」や「音楽の歴史をつくった人」を位置付けたり、北海道民謡の「ソーラン節」を鑑賞教材として取り上げたりするなど、児童の学習意欲が高まるよう工夫されている。</li> <li>○ 目次の主要教材ごとに、ねらいに迫るための具体的な学習目標を示したり、吹き出しにより活動のヒントを示したりするなど、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫されている。</li> <li>○ 鍵盤楽器の指使いをイラストや写真により示したり、その学年で押さえておきたい学習内容を巻末にまとめたりするなど、使用上の便宜が図られている。</li> </ul>
その他	